

令和 8 年 7 月 30 日

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

再発防止に向けた組織運営体制の再構築およびオリンピック・クオリフィケーション等の統一運用ルールについて

公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（以下「当連盟」）は、ボブスレー男子のミラノ・コルティナ 2026 出場資格に関する誤認事案を重く受け止め、再発防止と組織運営体制の改善を進めてまいりました。

当連盟は、本件の原因を、担当者個人の確認ミスだけでなく、国際情報の受信・確認・共有、役割分担、承認手続および記録管理が十分に組織化されていなかったことにあると認識しています。

このため、2026 年 4 月以降、組織図および役割分掌を見直すとともに、オリンピック・クオリフィケーション等の重要情報を組織として確認・承認・記録する統一運用ルールを整備し、理事会において承認しました。以下、その概要を公表します。

1. 組織運営体制の再構築

2026 年 6 月以降の組織体制では、理事会、事務局、ハイパフォーマンス本部、国際情報担当、強化部、医科学部、各委員会の役割と承認経路を明確にしました。国際情報の受信から、確認、審議、承認、実行、記録までを一連の業務として管理し、重要事項が特定の担当者だけにとどまらない仕組みとしています。

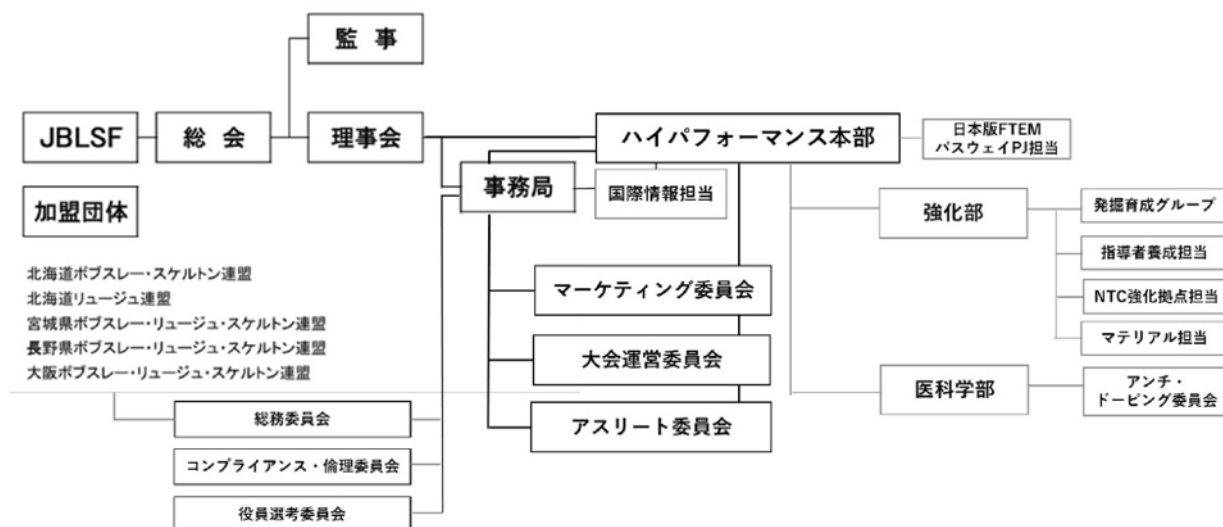
- ・ 理事会は、連盟の方針、重要規程、予算、重要人事および重大リスクに関する最終承認と監督を担います。

- ・ 事務局は、規程、会議運営、対外窓口、文書・記録管理等の業務執行基盤を統括し、国際情報をハイパフォーマンス本部および関係部門へ確実に接続します。

- ・ ハイパフォーマンス本部は、強化、選考・派遣、遠征、国際情報、医科学、用具、発掘育成、日本版 FTEM・パスウェイ等を横断的に審議し、重要事項を理事会の承認へつなげます。

- ・ 大会運営委員会、マーケティング委員会、アスリート委員会等の役割を明確にし、アスリート委員会は、アスリートの意見・要望の集約、ハイパフォーマンス本部との協議・提言、活動状況および重要な提言の理事会への報告を担います。

2026 年 6 月以降の組織図



また、会議体ごとに議長、主担当、主な議題および記録先を定め、「誰が、何を、いつまでに、どこへ残すか」を明確にします。正式な決定は議事録、承認記録、照会記録等として保存し、後から第三者が確認できる状態を維持します。

2. オリンピック・クオリフィケーション等の統一運用ルール

本ルールは、国際競技連盟（IF）が定めるオリンピック出場資格、国際大会の参加条件、エントリー、ライセンス、クォータ、選考・派遣基準等の重要情報について、誤認、確認漏れおよび共有漏れを防止するための共通ルールです。

ステップ1 IF 公式原文の共同確認

各競技の担当者、国際情報担当および事務局が、最新の公式原文を共同で確認します。資料名、版、発出日、取得日、確認者および日本語要約を記録し、連盟内の共通理解を整理します。

ステップ2 IF への公式照会

解釈に疑義が残る場合は独自に判断せず、国際ボブスレー・スケルトン連盟（IBSF）または国際リュージュ連盟（FIL）等へ書面で照会します。照会文、回答原文、受領日および対応判断を保存します。

ステップ3 複数者による審査・承認

選考・派遣基準、遠征計画、エントリー等を、国際情報担当、事務局、ハイパフォーマンス本部等の複数者で照合します。重要事項は所管会議体で審議し、必要に応じて理事会の承認へ接続します。

ステップ4 知識の共有・更新

公式原文、日本語要約、照会回答、判断根拠、承認記録、規程変更および過去の事例を共有保管し、更新履歴を残します。担当者が交代しても、同じ水準で確認できる状態を維持します。

【共通して遵守する事項】

- ・ 重要な資格要件を、一人だけの判断で確定しないこと。
- ・ 過去の運用や記憶に依存せず、必ず最新の公式原文を確認すること。
- ・ 疑義が解消していない事項を、確定情報としてアスリートや関係者へ伝えないこと。
- ・ 確認、照会、判断および承認の過程を、後から追跡できる形で保存すること。
- ・ 確認結果を、選考・派遣基準、遠征計画、エントリーおよびアスリートへの説明に反映すること。

3. 今後の運用と検証

本ルールは、競技担当者、国際情報担当および事務局が実施し、ハイパフォーマンスディレクターが全体の進捗を取りまとめます。ハイパフォーマンス本部が主要大会ごとの運用状況を確認し、理事会が重要事項および定期報告を通じて監督します。

当連盟は、組織図やルールを整備することだけをもって対応を完了とはせず、実際の運用を継続的に検証し、不備や国際規程の変更が確認された場合には速やかに是正します。

本件により影響を受けられたアスリート、所属先および関係者の皆様に、改めて深くお詫び申し上げます。当連盟は、透明性と説明責任を高め、信頼回復に向けて組織全体で取り組んでまいります。

以上